文芸作品展

5月号・7月号・9月号の会員の皆さんからの投稿作品から各部門ごとに選句しましたので発表いたします。

選者紹介

【俳　句】



たかとう匡子先生

神戸市須磨区在住。詩人。日本文藝家協会会員。詩集に『ヨシコが燃えた』『神戸・1月17日未明』『学校』『ねじれた空を背負って』ほか。評論・エッセイ集に『私の女性詩人ノート』三部作ほか。絵本『よしこがもえた』など著書多数。

【短歌・川柳】



尾崎まゆみ先生

神戸市西区在住。歌人。現代歌人協会所属。第34回短歌研究新人賞受賞。歌集に『ゴダールの悪夢』『レダの靴を履いて塚本邦雄の歌と歩く』『尾崎まゆみ歌集』など。共著に『塚本邦雄論集』がある。

俳句

【最優秀賞】　兵庫区　梅の美会　藤井　歌子

読み耽ける独りの世界梅雨籠り

「読み耽ける」を軸に読んだ。一息ついてふとガラス越しに外を見たら梅雨の雨が降っていた。梅雨はあとから発見することで読書への熱中ぶりがうかがえる寸法。「耽ける」、「籠る」が響き合って相乗効果となっている。

【優秀賞】　垂水区　五色山健寿会　眞みこ

手のひらに命ありけり蝌蚪の息

蝌蚪は「かと」と読み、おたまじゃくしのこと。この句では「手のひらに命ありけり」が大事。作者は老いてつまり蛙の目で蝌蚪を眺めながら幼い頃とだぶらせる。蝌蚪と作者がモンタージュされていて長寿の時間に実感がある。

【努力賞】　西区　きらく句会　廣常　憲

片陰に外野やかまし飛車落す

道の片側に日陰ができるまで夢中になっていてふと周りの様子が気になる。それが油断になって飛車という大事な駒を落としてしまう。片陰、外野という言葉の使い方が効果的、技巧的でおしゃれ。ベテランの句のような気がする。

【総　評】

高齢社会に入って生涯学習と言われて久しい。かつての人生50年が今や人生100年となって、どんな生涯を送るかが課題となったとき、ここには俳句をとおして晩年を楽しんでいるという空気があって、私も是非こんなふうでありたいと思う。いずれの句も横並びで一線、あえて選ぶとなると頭ひとつ抜け出したその差で順番に選んだ。

川柳

【最優秀賞】　北区　筑栄会　菜々

泣きじゃくる児の目鼻口に花吹雪

泣きじゃくる児は、ベビーカーに寝かされているのかもしれない。手足をバタバタ動かしながら、必死になって泣いている赤ちゃんの目鼻口つまり顔中が桜の花びらだらけになる様子がくっきり見えてくる。泣いている姿も、可愛いのだ。

【優秀賞】　北区　筑栄会　せい

インストール要パスワードで挫折する

パソコンなどのＩＴ機器の扱いにもかなり慣れてきたけれど、インストールの時、パスワードを忘れたらかなり悲劇的、再設定などハードルが高すぎて挫折するのだ。今を生きる人の実感が伝わってきて、みんな苦労しているのだなと安心する。

【努力賞】　北区　北野　利一

うまい米風呂は薬湯マイライフ

美味しい米を食べてお風呂は薬湯。それだけで人生は満たされる。控えめなようでいて、うまい米と薬湯にたどり着くまでの人生が見えてくるような気がするのは、ビリー・ジョエル往年のヒット曲「マイライフ」の効用だろう。

短歌

【最優秀賞】　北区　高原ささゆり会　中井　裕子

キミは誰？庭に降りくる雀にもママンの付けた名がきっとある

庭におりてきた雀を見た時、思わず雀に話しかけてしまったらしい。雀にも母のつけた名前があるという発想も素晴らしいのだが、「キミは誰」から始まる文体が洒落ていて、リズミカル。読んでいると楽しい気持ちになる。

【優秀賞】　北区　乾　外志

「遠足の前の夜みたい」と言いながらパッキングする明日旅に出る

「遠足の前の夜みたい」が良い。これだけで、期待に膨らむ胸の心躍りが伝わってくるのだ。そしてパッキング。几帳面な性格なので明日の準備は万全だとわかる。結句は「明日旅に出る」ムダのない言葉運びが素晴らしい。

【努力賞】　西区　佐藤　久代

青い空鳥のさえずり椎木の匂い懐かしここは翁の指定席

青い空と鳥の囀りと椎の木の匂いと懐かしさ、どれも手では触れないのだけれど、その存在を五感で捉えて表現しているところに惹かれている。短歌の醍醐味を知っているのだろう。「翁の指定席」は字余りだが気にならない。公園のベンチだろう。

選者による選考を行い優秀作品を発表！

優秀作品に記念品としてギフトカードを贈呈します！

- 最優秀賞　3,000円分
- 優秀賞　2,000円分
- 努力賞　1,000円分

※住所・電話番号・クラブ名のないものは無効となりますのでご注意ください。

5月号・7月号・9月号掲載分は11月号にて選考発表。

11月号・1月号・3月号掲載分は5月号にて選考発表。

